

石川県小中学校長会との懇話会

- 1 日 時 平成30年9月21日（金）16：00－17：30
会 場 石川県文教会館 4階401会議室

2 協議題

「先生の日」～教職員の多忙化改善に向けて連携しよう～

3 趣 旨

現在、学校現場で先生の働き方の見直しが行われています。保護者・PTAとして先生方の一日の勤務状況をしっかり知り、子どもたちのため先生方が力を発揮できるよう学校とPTAが連携していきたいと考えています。

＊石川県教育委員会「学校現場での働き方の見直しを進めています」より転載

教職員の勤務状況については、いわゆる「過労死ライン」とされる月80時間を超える時間外勤務を行った者が多数いるなど、看過できない多忙な状況が明らかになっています。

こうした勤務状況を見直さなければ、教職員が心身の健康を損ない、子供たちと真摯に向き合うことが出来なくなる恐れがあり、さらには教職員を志望する優秀な人材の確保が困難になることが危惧され、将来的に本県の教育力が低下することにも繋がりがねません。

教育の質を落とさず勤務時間を縮減することは大変難しいですが、取組方針を基に教育委員会や学校現場などの関係者ができる限り足並みを揃えて、効果や課題を丁寧に検証しながら、一つ一つ着実に具体の取組を進めてまいります。取組を進めるにあたっては、保護者や地域等の関係の皆様のご協力が不可欠であることから、ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

4 協 議

（1）川本県P連副会長（研修委員長）から、

- ・県教委のリーフレット「学校現場での働き方の見直しを進めています」をもとに時間外勤務が、いわゆる「過労死ライン」とされる月80時間を超える先生方が、小学校で13.6%約7人に1人、中学校で42.9%約5人に1人となっています。
- ・この様な状況で県教育委員会では、次の基本方針のもと取組を進めています。
 - ポイント1 子供たちと向き合う時間を十分に確保する。
 - ポイント2 国に教職員定数の改善を強く求めていく
 - ポイント3 教育の質を落とさず出来ることから一つ一つ着実にと方針を立てています。
- ・私たちPTAは、全国組織です。日本PTA全国協議会が全国を取りまとめています。ポイント2の教職員定数改善については、配布資料「日本PTA」をご覧ください。平成28年11月16日付で国に教職員定数の削減に反対する緊急要望書を出しています。PTAとしても教育環境に直結することについては、全国組織を生かし頑張っていきたいと考えています。

(2) 県校長会 小学校 河原 吉章(新神田小校長、県P連理事)

中学校 山田 辰也(紫錦台中校長、県P連副会長)より

「先生の日」について、それぞれの日課表、学校組織、校務分掌をもとに説明がありました。

・日課 例) 8:10の職員打合せから 16:00の下校まで

中学校は、この後部活動があり 18:30 完全下校

・組織 校長を中心に職員会議、学年会、特別委員会、学校関係者評価委員会、学校評議員会
校務分掌など

・校務分掌 () は内容例

教務(教育課程編成) 学籍(転入学事務) 給食(給食物品管理) 図書・教科書(教科書事務)
安全・防衛(消火用設備点検、避難計画実施) 清掃(清掃指導) 保健(健康診断・身体測定)
会計(校費関係事務) 庶務(サービス関係事務) 管財(備品台帳関係) 渉外(育友会庶務・会計)
特別委員会(学校評議員、いじめ問題対策チーム)

*三部会

学習指導(授業研究推進) 生徒指導(生活目標、校内外巡視) 特別活動(運動会、遠足)

県P連: 先生方の勤務時間の大半を占める学習指導や教材の準備、ノート点検などの他に、
いろいろな仕事を行っていることが分かった。

校長会: 校務分掌は、必要不可欠のもの

県P連: 会社で行っている外注できることは、外注できないのか

校長会: 経費の問題もあるが、内容的に外へ出せるものは少ない。

ただ、教材プリントの印刷や教具の準備などを補助する人の手当が一部はじまっている。

(3) 具体的な取組

①県内一斉の取組

県では、「定時退校日」の設定、「最終退校時刻」の目標設定、「リフレッシュウィーク」・「学校閉
庁日」の設定を推進

校長会: 各学校実情に合わせ取り組んでいる。タイムカードを設置したところがある。その他、
午後7時以降の電話を留守番電話にしたところもある。リフレッシュウィークや学校閉
庁日の電話対応を市町教育委員会が行ったところもある。

校長会: 職員の中には、仕事をしたいと残っている場合もある。そうした場合でも声かけし、遅
くならないようにさせている。

②部活動指導における取組

校長会: 県・市・町の指導もあり週2日の休養日を設けている。大会等がある場合は、工夫して
いる。保護者からは、もう少し活動時間を増やせないのかという声もある。県内一斉の
対応だと説明して理解を得るようにしている。

県P連: 部活動は、先生方の本来の仕事ではないと思っている。外部指導者を導入し先生方の負
担を軽減する話もあるが、現状はどうですか。

校長会: 国、県が予算措置して、外部指導者を導入できるようにした。ただ、現実には人材を捜
さなければならず思うに任せない状況です。

校長会: 先生方の中には、熱意を持って指導に当たっている人も多い。

県P連: 将来的には、学校は活動場所の提供とし、指導は外部指導者になればいいと思う。

③学校の工夫による独自の取組

校長会：職員へのねぎらいを含め声かけしている。

校長会：やらなければならないことが決まっているので、一気にというわけにはいかない。

学習指導以外の部分で、学校行事、校内会議などを見直し、よい意味で時間を生み出す必要があると思う。

(4) 両会長のまとめ

- ・互いの連携を深めていきたい。
- ・県P連としては、今日の会合で教職員の働き方改革へのより良い理解につながったと思う。
今後ともよろしくお願いします。